

# トビウオ通信 (11月号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。)

<http://www2.pref.shimane.jp/suisi/>

(TEL 0855-22-1720)

## 《メガイアワビの放流かごの開発》

### アワビの漁獲量の低迷と種苗放流

本県のアワビ類の漁獲量は平成初期までは年間 100 トン以上ありましたが、現在では年間 40～50 トン台と低迷しています。このため漁獲量増大を目的として、平成 7 年以降約 20～80 万個のアワビ稚貝放流を行っていますが、漁獲量は過去の水準までには回復していません。アワビ類の種苗放流の効果をあげることは、古くて新しい課題と考えられています。全国的にアワビ類の資源減少があげられていますが、資源増大のために種苗放流の技術面でも検討しなければならないことがいくつかあると思っています。

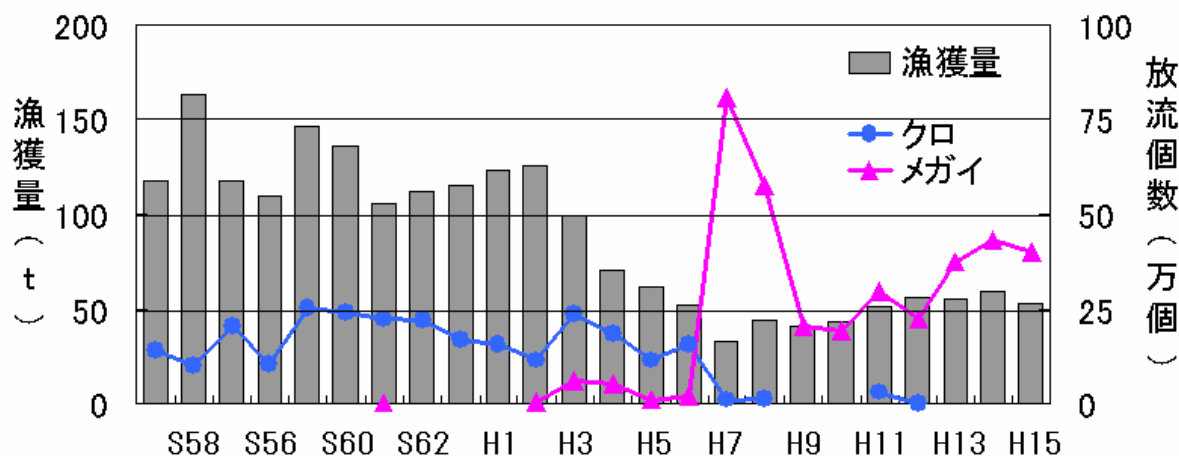


図1 島根県におけるアワビ類の漁獲量と種苗放流個数

### 稚貝放流の効果をあげるためには？→ 放流直後の減耗（食害）を防止すること

図2はアワビ稚貝の種苗放流後の生残率の推移を模式化したものです。ここで問題点として、種苗放流直後の大量の減耗があります。放流された稚貝には、きびしい自然が待っています。水槽の中とは違いヒトデ、タコなどの外敵生物がたくさんいるうえ、自然の海に慣れなければいけません。そのため放流直後の死亡が多く、資源を効率よく増やすためには、その死亡数を少なくする放流方法を開発する必要があります。

#### なぜ食べられるの？

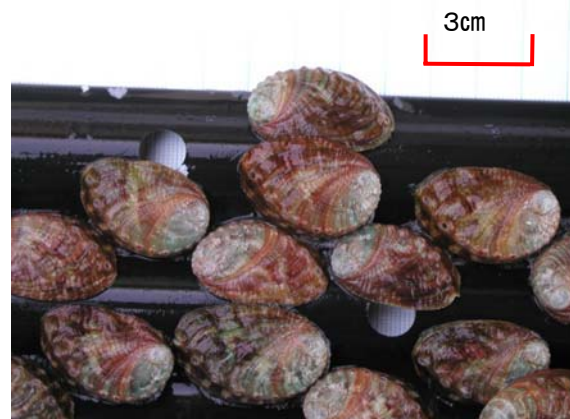
種苗の活力が低下していると食害を受けやすくなります。活力低下の原因は稚貝の質、種苗生産施設の水槽と自然の海との環境変化、輸送によるストレスなどが考えられます。

#### 食害を防ぐには

稚貝の取り扱いを丁寧に行い、また放流方法も船上からではなく潜水して行くと稚貝の活力の低下を少なくすることができますが、一地区数万個の単位となると潜水では大変な作業になります。また、魚類やタコやヒトデから保護するための方策も考える必要があります。

#### 放流かごの開発

そこで対策として、輸送や取り扱い作業で活力が低下した稚



種苗生産されたメガイアワビ

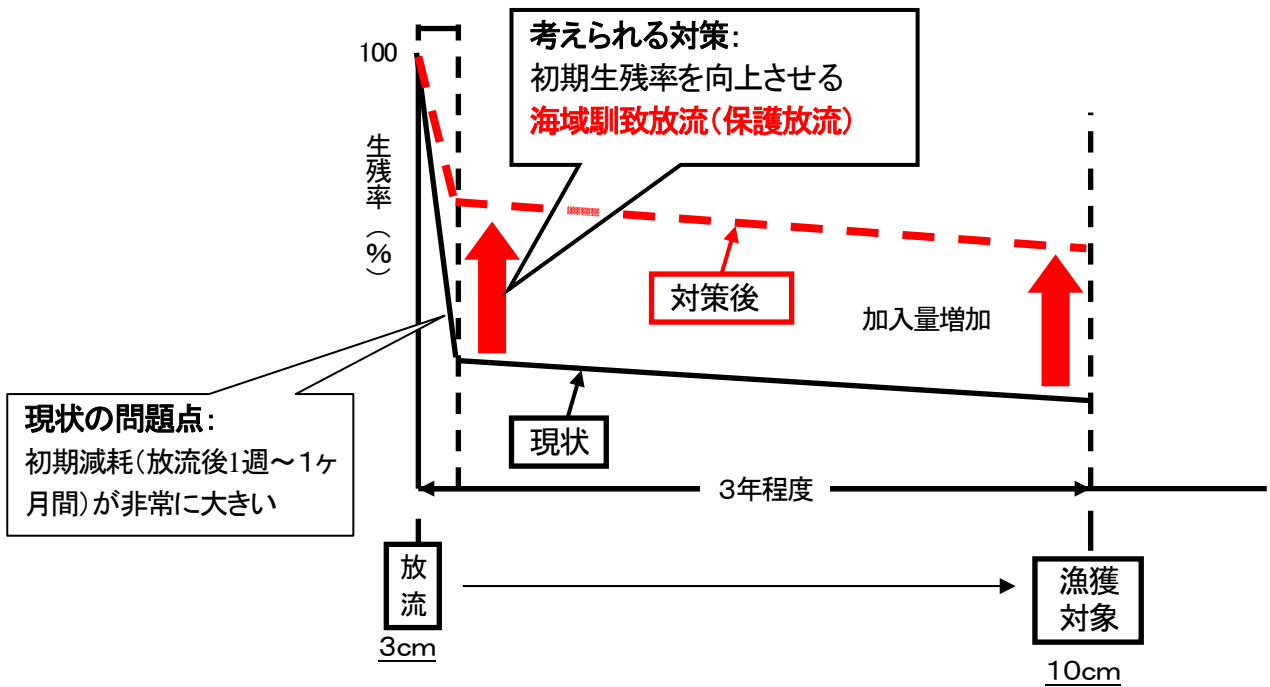


図2 放流後のアワビの生残状況の模式図

貝が自然の海に慣れるまでの間、外敵から保護し、かつ放流作業が簡単に行えるよう「放流かご」の開発に本年から取り組んでいます。

本年は、図3のようなかごを作成して試験を行いました。かごは、天井網（逸散防止、遊泳魚類からの保護）のあるもの・ないもの、底網（逸散防止、タコやヒトデなどからの保護）のあるもの・ないもの等、いろいろな形態のものを作成しました。かごの網の目合は約1cmです。このかごに30mmサイズのメガイアワビをそれぞれ30個収容し、定期的に潜水して稚貝の生残率などを調べています。

試験の結果、保護枠の上面に覆い網があることで、ヒトデやタコなどによる食害が少なくなり、生き残りが多くなることが分かってきました。

来年度は馴致放流のための放流器として、より速やかに天然漁場へ逸散させられるよう、放流かごの改良を考えています。

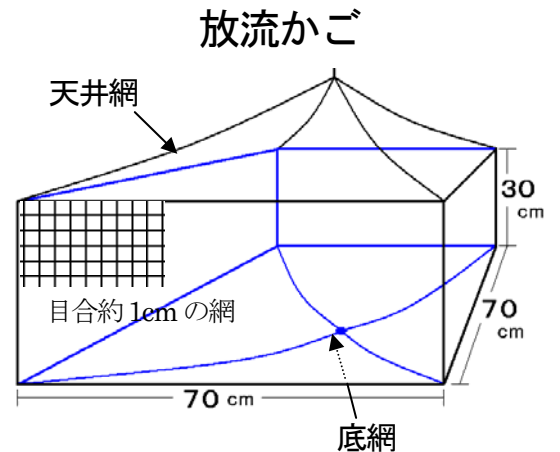


図3 試験に使用した放流かご



天井網・底網のあるタイプの放流かご

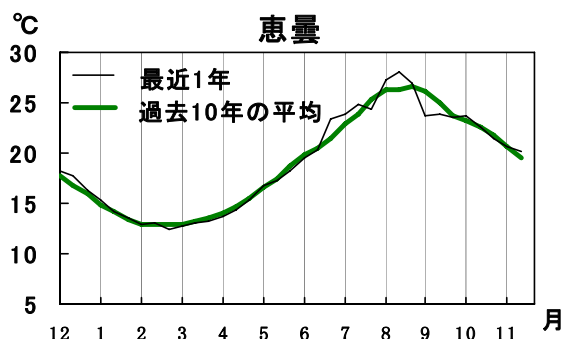
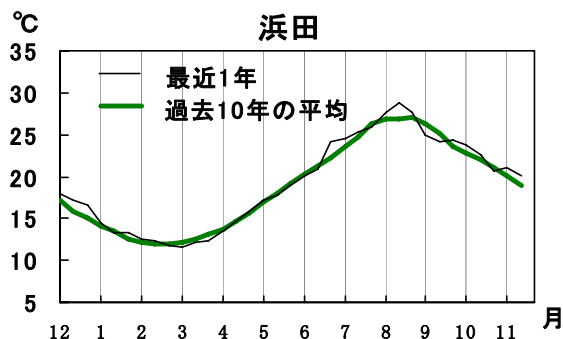


調査の様子

## 《 10～11月の海況 》

10月	月平均	平年差	評価
浜田	20.6℃	+1.2℃	やや高め
恵曇	20.5℃	+0.3℃	平年並

10月の平均水温は浜田で20.6℃、恵曇で20.5℃となりました。前月より3～4℃降温し、浜田では「やや高め」、恵曇では「平年並」の水温となりました。



### ＜エチゼンクラゲ情報＞

#### ◎ 速報

- 11月中旬 温泉津,仁摩町,益田市,美保関町,大社町,湖陵町等の定置で数千個単位の大量入網
- 11/11 定置網(大社町漁協) 5000 個入網,11/12 10000 個入網,11/14 2ヶ統で 10000 個以上入網,魚捕りを外し出す。
- 11/5 定置網(大社町漁協) 3000 個入網,11/9 8000 個以上入網,11/10 10000 個以上入網
- 11/1-2 定置網(湖陵町漁協)6000 個程度入網,11/6 600 個程度入網,11/10 大量入網のためクラゲと共に魚放す。
- 11/6 定置網(多伎町漁協)2000 個程度入網,11/10 大量入網のためクラゲと共に魚放す。

#### ◎ 11月の概況

- ・上旬: 10月下旬には沿岸でクラゲの入網がやや減少していましたが、11月に入り再び増えてきたようです。出雲・隠岐の定置では1000個以上の大量入網も見られます。
- ・中旬: 相変わらず出雲部・石見部の定置で数千個単位の大量入網があります。沖底・小底などでも多数入網しています。

※ インターネットでクラゲ情報の提供を随時行っています。携帯・パソコンで下記をご覧ください。

<http://www2.pref.shimane.jp/suisi/ik/>



## 《 10月の漁況 》

### 【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量は、マアジ主体に396トン、総水揚金額は3,517万円でした。1統当りの漁獲量は132トン(平年(過去5ヵ年平均)の45%、前年の77%)、同水揚金額は1,172万円(平年の46%、前年の43%)と前月と同様に低調に推移しました。これは前月と同様に漁獲日数が少なかったことや、漁獲の主体であるマアジの漁獲が低調だったためです。西郷では、マアジ、ブリ、サバ類主体に総漁獲量4,302トン、総水揚金額は2億7,998万円でした。1統当りの漁獲量は717トン(平年の92%、前年の151%)、同水揚金額は4,663万円(平年の90%、前年の103%)となりました。浦郷ではマアジ、サバ主体に総漁獲量2,034トン、総水揚金額は1億816万円でした。1統当りの漁獲量は508トン(平年の102%、前年の159%)、同水揚金額は2,704万円(平年の68%、前年の83%)と前月と同様にやや低調に推移しました。これは単価の低い小型のサバ類が比較的好調であったものの、単価の高いブリ類の漁獲が低調であったためです。

### 【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、ケンサキイカを中心に30トンで平年(過去5ヵ年平均)の25%、前年の44%、水揚金額は1,885万円と前年および前年の21%と低調に推移しました。西郷のイカ釣船(5トン以上)の漁獲量はケンサキ、スルメイカ主体の44トンで、平年の63%、前年の87%、水揚金額は2,099万円と前年の86%、前年の91%とやや低調に推移しました。

### 【沖合底びき網漁業】

先月に引き続きエチゼンクラゲ大量来遊の影響を受け、漁場、魚種が制限されるなどの影響を受けました。

浜田港ではムシガレイ、スルメイカ、アンコウが漁獲の中心でした。1 統当り総漁獲量では前年同月を 43% 上回りましたが、水揚金額では 5% 下回りました。アカムツ、キダイの漁獲量はそれぞれ前年の 48%、73% の漁獲に留まりましたが、ケンサキイカは 1.7 倍、アンコウはほぼ前年並みの漁獲 (1.2 倍) がありました。恵曇港ではムシガレイ、ヤナギムシガレイ、アンコウが漁獲の中心でした

### 【小型底びき網漁業】

大田市漁協では、漁獲量で前年を 4% 上回りましたが、水揚金額で 2% 下回りました。主な漁獲物はニギス、アンコウ、イボダイでした。その他ではムシガレイ、ソウハチがまとまって漁獲されています (それぞれ 15.9 トン、15.5 トン)。一方、和江漁協では、漁獲量で前年を 8%、水揚金額で 13% 下回りました。イボダイ、アンコウ、キダイが主に漁獲されています。イボダイは前年の 3.5 倍の漁獲がありましたが、小型が多かったためか金額に占める割合は 4% とふるいませんでした。

### 【定置網漁業】

エチゼンクラゲ入網の影響もあり、県東部では漁獲量で前年比 52%、平年比 102%、水揚金額で前年比 49%、平年比 73% と低調で、県西部でも漁獲量で前年比 154%、平年比 61%、水揚金額で前年比 154%、平年比 47% と低調でした。隠岐では漁獲量で前年比 88%、平年比 82%、水揚金額で前年比 88%、平年比 71% でした。漁獲物は県東部ではマアジ、サワラ、ブリ、カワハギ類、県西部ではマアジが半分以上を占め、隠岐ではマアジ、サバ類、カワハギ類、マダイ等が主でした。

### 【釣・縄】

県東部では漁獲量で前年比 111%、平年比 72%、水揚金額で前年比 111%、平年比 82% とやや低調でした。県西部では漁獲量で前年比 84%、平年比 90%、水揚金額で前年比 84%、平年比 64% と低調でした。隠岐では漁獲量では前年比 79%、平年比 40% と低調でしたが、金額では前年比 79%、平年比 108% とまずまずでした。主な漁獲物は県東部ではブリ・ケンサキイカ・アマダイ、県西部ではケンサキイカ・メダイ・サワラ・ブリ、隠岐ではヨコワ (畜養用活魚)・ソデイカ・メダイ等でした。

## 漁獲統計

平成 17 年 9 月 1 日 ~ 30 日

漁業種類	水揚港	延隻数 ・統数	主要魚種	1 隻(統)1 航 海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	43	マアジ、サワラ、サバ類	9.2 トン	396 トン
	西郷	112	マアジ・ブリ・サバ類	38.4 トン	4,302 トン
	浦郷	63	マアジ・サバ類・ブリ	32.3 トン	2,034 トン
イカ釣り (5 トン以上)	浜田	526	ケンサキイカ	111kg	30 トン
	西郷	255	ケンサキイカ・スルメイカ	173kg	44 トン
沖合底びき網	浜田	26	ムシガレイ、スルメイカ、ケンサキイカ	14.2 トン	369 トン
	恵曇	21	ムシガレイ、ヤナギムシガレイ、アンコウ	X トン	X トン
小型底びき網	大田市	339	ニギス、アンコウ、イボダイ	537kg	182 トン
	和江	388	イボダイ、アンコウ、キダイ	631kg	245 トン
定置網	浜田	55	マアジ、サバ類	1,547kg	85.1 トン
	美保関	121	マアジ、サワラ、カワハギ類	423kg	51.1 トン
	浦郷	37	マアジ、サバ類	299kg	11.1 トン
釣・縄	浜田	555	ブリ、ケンサキイカ、メダイ	45kg	25.2 トン
	五十猛	152	ブリ、ケンサキイカ	90kg	13.6 トン

※ : 1 隻 (統) 1 航海当漁獲量は総漁獲量 ÷ 延隻数・統数で算出しており、四捨五入した値です。

※ 水産試験場ホームページ (月別漁模様) で上記の漁況の詳細をご覧ください。 <http://www2.pref.shimane.jp/suisi/>